

金属板保護フィルム山城

関東営業所を移転・改称

上野に「東日本支店」設置

周辺地区の営業、人材採用強化

意匠性金属板保護フィルムの販売、加工を手掛ける城山（本社・名古屋市長東区、社長・加藤隆介氏）は、関東地区での体制刷新、

強化を図った。千葉県流山市にあった関東営業所を東京・上野に移転し、名称変更を行った上で先月から稼働をスタート。アクセスの良い都心部への移動を通じて周辺地区での営業活動をさらに活発化させるほか、仕入先との連携強化、地元人材の採用拡大にもつなげたい考えだ。

同社は関東営業所が中心となり関東での需要深耕に努めてきた。2022年末には群馬県高崎市に北関東出張所を開設し、関東北部・北信越地区の顧客対応力を高めている。

かねて北関東出張所との行き来をしやすい

することで連携強化を図り、関東近郊での保護フィルム、スキッド用木材の独自商品「Sdウッド」の拡販に向け、体制の刷新を図ろうと検討を進めてきた。

そこで、東京からやや距離がある流山市でなく都心部に拠点を置き、新卒・中途社員の雇用円滑化も実現するため移転を決めた。

新オフィスは東京メトロ・稲荷町駅近くに「東日本支店」と改称した上で設置し、6月1日から稼働を始めた。旧営業所の7人が同支店に移った。

同社は、近年加工・在庫を担う拠点「フィルム加工センター」（FKC・名古屋市長守山区）の機能強化と別倉庫のレイアウト



東日本支店が入るビル

同社は、近年加工・在庫を担う拠点「フィルム加工センター」（FKC・名古屋市長守山区）の機能強化と別倉庫のレイアウト

ト変更、社員の多能工化を推進。生産性を向上させてきた。

移転を機に東日本支店は営業関連部門のみとなるが、FKCの増強を通じて関東周辺のユーザーに対しても従来通りの配送が可能な体制を構築した。北関東出張所が賃借する倉庫のスペース拡充、東京近郊での新たな置場設置も今後検討する。

今後地元人材の採用に注力してマンパワーを高めながら、関東や東北、北信越地区での営業活動を積極化することで段階的な実績拡大を目指す。